

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北里大学相模原キャンパス未来工学部新校舎	階数	地上5F
建設地	相模原市南区北里一丁目411-1外48筆	構造	S造
用途地域	準工業地域・準防火地域	平均居住人員	1,360 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年10月17日
敷地面積	2,954 m <sup>2</sup>	作成者	戸田建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	1,627 m <sup>2</sup>	確認日	2022年10月17日
延床面積	6,667 m <sup>2</sup>	確認者	戸田建設株式会社一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 83% (37 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 83% (36 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+: 83% (36 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

音環境	2.9
温熱環境	2.4
光・視環境	3.4
空気質環境	3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

機能性	3.4
耐用性	3.7
対応性	3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

生物環境	4.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

建物外皮	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

水資源	3.8
非再生材料の	3.6
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	3.6
地域環境	3.3
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 小田急線相模大野駅からバス約25分の準工業地域に学校単一用途の大学を、S造、5階にて計画した。		<b>その他</b> -
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境に十分配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の長い空調・給排水配管を使用している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構緑化指数が47.17%である。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷を抑制している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 躯体と仕上げ材が容易に分別可能とし、部材の再利用可能に務めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> 周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される